

令和5年度

# 浦庄小学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

「聴く・話す・学び合う」力を定着させることによって、主体的に学習する児童を育成する。

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	教頭
		教務主任	研修主任
		高学年代表	中学年代表 低学年代表

校長

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○言語に対する知識・理解や四則計算の力が定着しつつある。 ●上の学年に進むにつれて、学力の差が広がる傾向があり、文章の内容を正確に把握する力に課題が残る児童がいる。	・漢字の読み書きや四則計算などの基礎的・基本的な学力が確実に身に付いている。 ・身に付けた知識や技能を、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・ドリル学習などを活用して一人一人の定着度を確認しながら、基礎的な学力の向上を図る。 ・「浦庄小学習の約束」に全校で取り組み、辞書の活用や視写、言葉集めなど語彙力を高める。 ・ICTの活用や児童用タブレットの有効な活用を研究し、分かりやすい授業を展開する。	・「浦庄小学習の約束」の中の重点項目を児童とチェックしながら、引き続き全校で取り組む。 ・児童用タブレットの効果的な活用方法を情報交換し授業に生かす。 ・朝学や宿題で、前学年の漢字や計算の反復練習をする。	・漢字の読み書きや四則計算などの基礎的な力は身に付いてきたが、日常的な場面での活用に課題がある。 ・ドリルの QR コードを読み取って自分で学習したり、パワーポイントでプレゼン資料を作成したりするなど、タブレット活用の幅が広がった。	・4月当初に「浦庄小学習の約束」の重点項目を確認し、全校で取り組んでいく。 ・T2, T3との支援のあり方の研修。支援の徹底。 ・基礎・基本を根気強く積み重ねていけるように、漢字や計算のミニテストを週2回程度行い定着を図っていく。

### 【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中まじめに学習に取り組み、自分の考えを表現したり、友達の意見を聞いて考えたりすることができる児童が多い。 ●自分の考えや思いを筋道を立てて話したり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを豊かに表現することができる。 ・自分の考えと友達の考えを比べながら聞き、自分の思いや考えを明確にしたり深めたりすることができる。	・ペアやグループ学習の機会を設定したり、ワークシートや思考ツールを活用したりし、学び合う授業について研究・実践する。 ・日記や作文、ノート指導、新聞活用などを通して、自分の考えを書く機会を増やす。 ・全校で週末読書に取り組み、読書活動を充実させ、長文読解や初めて読む文章に慣れさせる。	・ペアやグループ学習の前に個人で考える時間をしっかりと確保し、話し合いで生かす。 ・様々な場面や条件に即して自分の考えを書く活動を積み重ね表現する。 ・阿波っ子タイムズや県学力向上確認プリントを活用し思考力や表現力をつけていく。	・スピーチやペアでの話し合い、学級会などで自分の意見や気持ちを伝える経験を積んだことで、目的に応じて話すことができるようになってきた。 ・前向きに書く活動に取り組んでいる。日記には課題を与えることで、内容に広がりが見られた。 ・週末読書や阿波っ子タイムズの活用で初見の文章に慣れ、語彙を増やしたり、表現の仕方を学んだりすることができた。	・さらにコミュニケーション力をつけるために、話型を示したり、スピーチの方法を工夫したりする。 ・討論型の学習を取り入れ、考える時間や書く時間を確保し、自信をもって伝えられるように手立てを考える。 ・T2, T3との支援のあり方の研修。支援の徹底。

### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にきちんと取り組むことができる児童が多い。 ●自ら自分に合った課題を見つけ、主体的に学習ができる児童は少ない。	・課題解決に向けて各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習を振り返り、自分に合った課題を見つけたり、自分で考えて判断したりすることができる。	・発達段階に応じた発表の仕方(浦庄スタイル)を継続し、学び合う授業ができるようにする。 ・児童の意識の流れに沿っためあてを提示し、発問を工夫することにより児童の多様な考えを引き出す。 ・家庭学習の手引きや自主勉強のよい見本を示し、学習習慣の定着や内容の充実を図る。	・浦庄スタイルを継続しながら、学び合うための土台や雰囲気づくりをする。 ・身近な題材を用いて児童が興味を持ち、分かりやすい授業展開になるよう、教材研究に努め、家庭学習でも取り組むことを推進する。	・全体的には学習への集中力はついてきたが、学びに向かう姿勢が十分ではない場面も見受けられた。 ・自主学習が習慣付いてきた。児童同士で定期的にノートを見合うことで、よい見本を参考にして、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。	・学び合う授業のためにも、浦庄スタイルの基本に立ち返り、1年間を通して「聴く」態度を徹底させる。 ・自主学習の充実を図りながら、自分に合った課題を見つけたり、自分で考えて判断したりする力を身に付けられるようにする。

## 令和5年度 学力向上ロードマップ

